

二中だより

国立二中ホームページにも掲載：国立第二中学校へアクセス

令和3(2021)年 2月15日
国立市立国立第二中学校
校長 黒田 宏一
国立市富士見台3-30
電話 572-2187

3年生の皆さんへ

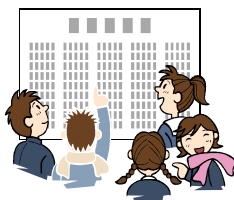
校長 黒田 宏一

3年生の進路決定に向けた高校入試等も前半の私立・都立高校の推薦入試が終わり、2月10日(水)からは後半戦となる都内私立高校の一般入試が始まりました。21日(日)には都立高校の一般・分割前期入試が行われます。受験生である3年生の皆さんには持てる力を全て出し切り悔いのない挑戦となるよう心より祈っております。

この2月10日は、私にとって特別な日でもあります。この日は、31年前受け持ちの生徒が体育の授業中に突然倒れ急性心不全のため帰らぬ人となった命日に当たります。当時は2月18日が私立高校の入試開始日だったため試験を8日後に控えてのあまりにも悲しく、そしてあまりにも早すぎる別れでした。とても真面目でどんなときでも笑顔を忘れない明朗・快活な生徒でした。受験についても「ドキドキするけど頑張ります。」と前向きに挑戦しようとする気持ちを笑顔で語っておりその姿は鮮明に覚えています。数日後、ご両親の承諾をいただき学校で「お別れの会」を開かせていただきました。最後にご両親から3年生に向け、「我が子は受験を目の前にして残念ながらその生涯を終えました。皆さんも不安な気持ちはあると思います。でも受験できることがどれほど幸せなことか、親としてその気持ちを噛みしめています。それはその先に高校生活という新たな未来が待っているからです。凶々しいお願いですが(自分の)子供の分まで頑張ってください。」と涙ながらに話されたことは今でも耳朶から離れません。



3年生の皆さんは、この1年コロナ禍での生活を強いられ行事や部活動など様々な活動が無くなり寂しい思い、つまらない思い等色々な感情が交錯してきたことと思います。心のエネルギーが十分蓄えられなかったかも知れません。でもここまで本当に頑張ってきました。週に2~3回ですが西門で3年生と挨拶を交わしていましたが誰もが声に力があり、こちらをしっかりと見つめる目から内面の力強さを感じています。また、昨年の緊急事態宣言による「臨時休業の3ヶ月」を経験して仲間と学べること、会話できること、遊べること等が何物にも代えがたい貴重な財産であることを知りました。一年間、そのような経験を乗り越えてきた皆さんの姿はとてもしっかり良かったです。きっと間近で見ていた1、2年生も同じように感じていることと思います。3年生はこれからの1ヶ月、大変かも知れませんが進路決定の受験(できることは幸せなこと)を乗り越え、卒業に向け1日1日を大切に過ごしてください。



保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、進路決定まで励ましのエールを送っていただきますとともに、自信と誇りをもって新しい世界へ飛び立てるよう御支援をお願いいたします。そのために学校もできる限りの応援をして参ります。

国立駅旧駅舎での展示会が終了しました。緊急事態宣言が出され、展示ができるのかという心配もありましたが無事に予定通り行うことができました。最初の手配では、準備・片付けは美術系の生徒に手伝ってもらい、展示会場では有志の生徒によるギャラリートークを予定していましたが、緊急事態宣言下ということでギャラリートークは断念し、準備は生徒ではなく用務さん、スクールサポートスタッフや授業の空いている教員で行いました。保護者・地域の方々をはじめ、たまたま駅を通りがかった方にも熱心に見ていただいたようで、多くの感想を頂きました。「個性が光っていていろんな目線での表現に驚きました。」「すごく素敵でほっこりした気持ちになりました。」「力作です。込めた思いが伝わってきます。大人もがんばります。」「見ていて涙が出てきました。ありがとう。」等々、生徒の成果を見ていただきありがとうございました。



国立駅旧駅舎展示 1月29日～2月1日 終了

今回のコンセプト
会場に張り出していました

令和2年6月、平凡な日常が激変した臨時休業明け。生徒たちは当初、大変だったことをあまり口には出しませんでした。そこでまず、現状をどう思っているのか、個々の思いを吐き出すことを目的に考えをシェアしました。

「楽しみにしていた行事が全部潰れてしまった。」「目標にしていた試合が無くなった。」「単身赴任の父に5か月会っていない。」「会えない祖父母が心配」「家でゲームばかりしていて自分が不安」等々、様々に出てきて、不安なことや我慢しているのは自分だけではなく、みんな同じような気持ちであることがわかりました。

そして8月、道徳の授業で日本赤十字社「3つの感染症 ～病気・差別・不安～」の資料をもとに、新型コロナウイルスによる感染症が、負のスパイラルを持っており、それが更なる感染の拡大につながっているということを知り、怖いのは病気だけではなく、人々の不安や差別・偏見なのだというところをしっかりと理解しました。

これらを受け、カルタでどんなことを伝えようかと投げかけると、「個人差はあれ、みんなある程度我慢している、お互いに励ましあおう。」「元気のない人にはストレスに強い自分が元気をあげる。」「医療現場の方々や宅急便の方々、スーパーのレジの方々など、生活を支えて下さっている人に感謝を伝えたい」など、大人が励まされるような言葉がたくさん飛び出しました。中学生の若さ、真っすぐさ、たくましさ、我々が元気をもらいました。

次にデザインを考えるにあたって、心地よく相手に伝えるための4つの視点 ①「ネガ・ポジ変換」 ②「I (アイ) メッセージ」 ③「ターゲットを絞り込め! (ターゲティング)」 ④「BE A HERO」について学び、自分にできることや社会に伝えたいことを整理し、原案をつくりました。

デザインを推敲する過程では、バンクシーの手作りアートカードを活用した「デザインすることを考える」という鑑賞の授業を通して、さらに視覚で伝えることについて深く学び、完成させました。

また、「くにたちご当地タンブラー」を制作した1年生は、『駅前に「2中カフェ」がオープンし、くにたちの魅力を伝えるタンブラーを販売する』という設定で、タンブラーのスリーブをデザインする題材です。マインドマップを用いて考えを広げ、ワールドカフェ形式でその考えをシェアし、国立の魅力について十分に話し合ってから、個々にデザインしました。

最後に「コロナに負けるな 起き上がりこぼし」は、特別支援学級A組の生徒が日本の伝統玩具の制作技法である「張り子」で、和紙と水糊を重ねて作りました。可愛らしくもユニークな起き上がりこぼしの表情を楽しんで下さい。

エコバッグプロジェクト

本校では『コロナに負けるな!! 国立二中エコバッグプロジェクト』を立ち上げ進めています。環境問題や健康への影響、資源問題等の観点からレジ袋を規制しようとレジ袋有料化が始まり半年が経ちました。本校でも少しでも社会に貢献しようという思いと、今年度は全校で取り組む行事がなかったことを受け、二中全員で取り組んだ物を残したいという思いから、オリジナルのエコバッグを作ろうと考えました。

冬季休業中に全生徒からデザインと標語を募り、学級委員会、生徒会役員、教員で選出しました。デザインは 標語は の作品が選出されました。

なお、完成品は希望者に販売することとなります。詳細は別途お知らせします。



2月	3月	行事予定
18 (木) SC相談日	1 (月) 一斉委員会	
21 (日) 都立一次・前期入試	2 (火) 都立前期・一次発表 避難訓練(地震)	
23 (火) 天皇誕生日	8 (月) 臨時時間割始～19日まで	
24 (水) 学年末考査①(数・社・理)	9 (火) (1・2)保護者会	
25 (木) 学年末考査②(国・英・(1・2のみ技家))	10 (水) 都立後期・二次入試	
26 (金) 学年末考査③(1・2のみ音・美・保体)	11 (木) 中央委員会	
卒業式の日は、1,2年生は自宅学習となり、参列はしません。なお卒業生の保護者の参列は1家族につき2名までとさせていただきます。別途お知らせいたします。	12 (金) 体験を語る会 かがやき授業終	
	15 (月) (3)校外学習	
	19 (金) 卒業式	

お知らせ